第３章

失せた世の為に神がなして下さった事

「それ神はその独子を賜ふほどに世を愛し給へり、すべて彼を信ずる者の亡びずして永遠の生命を得んためなり。」

（ヨハネ伝３章１６節）

◎教師の皆様、ここにこの授業のあなたの目的があります。

1.あなたの最初の目的は、イエスが十字架でなされたみわざを根拠に、失せた人々の為の神の救い主あるいはメシアであると主張しておられる点を、あなたの生徒に示すことです。

2.あなたの第二の目的は、イエスが唯一の正当にして、資格のある救い主であられる点を示すことです。

3.あなたの第三の目的は、神がキリストにあってなされた事が、失せた人々を神との関係にもってゆくのに必要な事柄のすべてである、という点を示すことです。

4.教師の皆様、この授業におけるあなたの主要にして総体的な目的は、イエス・キリストを、失せた罪人のただ一つの望みとして示すことです。

○主題、意図と適用

教師の皆様覚えて下さい。各章にある主題、意図と適用はあなたの為であり、生徒の為ではありません。ここにそれがあるのは、あなたを助けて、達成しようとしている事及びその始め方をもっとよく把握させる為です。ですからそれを学んで下さい。それがあなたにとって自然なものとなる程までに、あなたの一部として下さい。丁度、あなたの手がスプーン一杯の食べ物をあなたの口に運ぶ時、それが自然に開くように。

主題

「失せた世の為に神がなして下さった事」

意図

イエス・キリストはその福音を通し、失せた人を御自身との正しい関係にもってゆくのに必要な、すべての事をして下さいました。

適用

生徒に自分が自分を救う事は出来ないけれども、救い主によって救われ得る事を理解させることです。永遠の罪の定めから人を救う為に、救い主は多くの入念にして特別な要求を満たさなければなりません。イエス・キリスト、ただイエス・キリストだけが各要求そしてすべての要求を、実際に満たし（満たす事が出来）、どの失せた人であっても、その人からいかなるたぐいの助けもなしに、救う事がお出来になるのです。

◎第三課の提示

あなたの指定された教えの時間よりも四～五分はやく家に着くよう、心掛けて下さい。あたたかく、親しみある挨拶を交わし、あなたがこの前生徒に会って以来、どんなぐあいであったか知るようにして下さい。でも教えのテーブルに就く前に座り込んでしまってはだめです。あたたかく、リラックスした雰囲気を保つことが大切である事を覚えて下さい。しかし、ダラダラしたり、方向性を持たないということであってはなりません。「週一時間で六週」という時間の枠内で、この六つの授業のすべての素材を提示するという、あなたがあらかじめ定め、告げた目標を離れてもいけません。その為あなたは時間どおりに教えを始めなければいけません。そしてどの与えられた視点でも、それをそれたり、のらくらしたり、あまり長く、あるいは頻繁に「立ち泳ぎ」をしてはいけません。目標に到達しなければなりません。自分の使命を持ち、それに留まりながら。その事について、あまり形式的、事務的になってもいけません。リラックスし、くつろいでいるべきです。でも、あなたがそこにいてするべき事を忘れたり、怠ってはいけません。単なる社交的なつきあい、あるいは一般的な訪問のためではないのです。特別な時間のわく内で、特別な諸真理を示す為です。あなたが教えている生徒は、それが必要なのです。しかしその他にもそれを必要としている人は多くいます。あなたはこの生徒で終了したらすぐに、出て行って教えるべき他の人々を探さなければなりません。神はそれをあなたに期待しておられるのです。神はあなたにそれをする権能を与えられたのです。マルコ１６：１５、マタイ２８：１９－２０等。ですからあなたの使命と目的を決して見失わないように。あなたがそこにいるのは、自分の仕事をする為ではなく、神のお仕事をする為です。そして神のみこころは、できるだけ多くの人がこの栄光に満ちた諸真理を聞くという事です。

一度あなたが教えのテーブルに就いたら、机の上に図を広げ、短いおさらいを始めてく

ださい。それは決して五分を越えてはいけません。一般には三分で十分です。しかし、各授業（二課から六課まで）は、新しい授業を前の授業と結びつけるのに足るようなおさらいをもって、始めるべきです。それは全体にわたる系統的な素材の自然な流れをもたらすようなやりかたになります。あなたが教えるに従い、次第にキリスト教の「大きな絵」あるいは、あらましが、あなたの生徒の心の中ではっきりしてくるようであるべきです。六つのバラバラな部分ではなく、一つの美しい全体としてです。

私のおさらいはいつも、私達が物事を神が見られるように見ている、という点を思い起すことから始めます。私がこの事を言う時は、図の最上部に書かれた「神」を指します。それは私がいつもしようとしている事で、私の生徒が一緒に「神」と読む為です。（もしあなたが生徒とテーブルを隔てて向かいに座っているなら、図は生徒にとって逆になります。ですから、おさらいであなたが図に新しいデータや視点を加える時は、図をぐるっと回して、あなたが始めたこと、指摘していることを、生徒がすらすらと解るようにして下さい。私がおさらいを進めてゆく時は、図の適当な視点をずっと指しています。そして生徒には、神の考えておられる事を私達が正しく知ることの出来る唯一の方法は、聖書によるという点を思い起こさせます。そこで神は考えておられる事を語られたのです。それで私達は聖書を見、その構成、その預言、その主張を通して、それが真理である事を知ります。さて、究極的にはすべての人が直面しなければならない神は（一番上の左の聖句をしめす）世を二つの基本的なグループに分けて見ておられます。霊的な意味で神との関係を持たない人々（欄１を指す）と、救われた神の子として神との関係のある人々（欄２を指す）です。それから私は生徒に、先週グループ１のいかなる人もグループ２に入る事がどんなに不可能であるか、共に見てきたことを思い起こさせます。それは真実です。なぜなら、人のおこないは、神が人をどちらかのグループに置く時用いられる基準ではないからです。あまりに悪い事をしたから、グループ１の人々があのおそるべき状態に置かれた、という事ではありませんでした。またよいおこないの偉大な記録があったから、グループ２の人々が、あのすばらしい状態に置かれた、という事でもありませんでした。グループ２の人々がそこにいるのは、ただ神御自身によって救され、正しい者とされた、あるいは義とされたからだけなのです。私はもう一度、グループ１とはいかに希望のない状態であか、そしてそこにいる人々がその状態を変える事はいかに不可能であるか、を指摘してか

ら、このおさらいを終えるのが普通です。ここで私は救いの為のよきわざ、おこないの無益さを示している、下の左側隅の聖句をまっすぐ指差しています。

教師の皆様、このおさらいの重要性を見くびってはいけません。これらは重要な概念なのです。そしていつでも明確にし、強調する必要があります。でもたぶんあなたの生徒には、かなり異質なものです。ですからそのおさらいは、真理をもっと生徒の内に打ち込んでゆく為の手段として役立ちます。既に私が指摘したので、あなたは前に教えた授業を、今教えようとしているものに繋げてゆく事ができます。でもおさらいは、連結の工夫よりはるかに上回るものです。繋げるだけでなく、またあなたの生徒の内に真理をさらに深めてゆくだけでなく、おさらいは又あなたが生徒の心の内に視点を明確にしてゆく、あるいは最初あなたが急いで通過したので、生徒が全く見逃した視点を教える為、の機会提供となるのです。ですからあなたがおさらいをしている間は、注意深く見守りなさい。もしあなたの生徒がとまどっていたり、無表情であったり、何か言いたい事がわかったら、中止して、生徒の心にあるものを確かめて下さい。少し時間をとって、あなたが進む前に解決しておきなさい。

またあなたは、「今おさらいを終えたので、すぐ授業の教えに進みます。」などと言う必要はありません。あなたはそれを終えれば解りますし、生徒もまた解るでしょう。でもそんな事を言う必要はないのです。ただまっすぐ新しい素材の中に入ってゆく事です。ゆるやかで、連続的な素材の流れの中で、またそうしたやりかたで。

Ⅰ人が自分を救う事は出来ないから、ということは、救われ得ないという意味ではないと指摘して第三課の新しい素材を始めて下さい。

A「救われた」という言葉を説明して下さい。

1「救う」とは、危険、危難から救助する、解き放つという意味です。救われた人とは、そこから救助された、あるいは解き放たれた人の事です。

ここで例を示して下さい。

おぼれている子は、救助員によって救われます。屋根の上でわなにかかったネコは消防士によって救われます。パイロットはパラシュートによって墜落する飛行機から救われます。各ケースとも、起きた危難からの解放です。

2「救われた」ということは、言葉の聖書的な意味においては、エペソ２：８にある

ように、罪の定めと火の池における神からの永遠の分離から解き放たれる、という意味です。そうした解放あるいは救いはまた、永遠に神と共に過ごし、天における永遠の生命の喜びと祝福をすべて体験する、という事でもあります。

Bグループ１にいることがわかった人は、ことばの聖書的な意味において、自分自身を「救う」事は出来ませんが、救われる事は可能なのです。

ここで例を示して下さい。

あなたの生徒に、もしニューヨークから英国への船に乗っていて、その船が大西洋のど真中で沈むとしたら、実際大変な危険、死の危機に直面することになるでしょうと話して下さい。泳いで岸にたどりつく事は全く不可能です。仮に十分な恵みに与り救助ボートに乗れたとしても、それを漕いで岸に着く事も不可能です。冷たい水の中に浮遊していることは、まもなく体温低下からくる死、溺死、あるいはサメにやられる事になるでしょう。救助ボートに乗っていても、長くは生き残れないでしょう。たべものや水を欠き、荒い海にさらされている事は、程なく元気一杯の命をも奪う事になるでしょう。自分自身を救うという観点では、その状況にある人は、無力で希望のない状態に置かれることになるでしょう。

でもそれは、そうした人に対する助け、救いがないということではありません。別の船がすぐ近くの海域にいて、無力で希望もなく水に浮いているあなたの生徒を、助けにやってくるかもしれません。そんな場合、あなたの生徒は救われたことになるでしょう。でもそれは自分の努力によるものではありません。他人の努力によって、救われたことになるのです。

Cさて神は、聖書のイエスが救い主であって、グループ１から希望のない失せた男女をとらえ、グループ２の救われた状態へもってゆける、と主張しておられます。彼らは自分自身を救う事が出来ませんが、イエスは彼らを救う事がお出来になります。

１教師の皆様、あなたはこの視点を確立しながら、この章の最後に例で示したように図に十字架を付け加えるべきです。

２この視点においては、私は生徒に対し、極めてまじめかつ個人的に対応します。そして生徒に、救い主だと主張しているのはイエスだけではない、と話します。歴史のあらゆる時代を通じて、救い主だと主張した人は多くいます。私は生徒に、人が

ある救い主を信頼しながら、あまりに遅すぎて神の審きの時に、救いの為あてにしたその救い主が、にせものであって、ちっとも救い主なんかではない、という事を知ったとしたら、なんという悲劇でしょうか、という点を話します。それは、すべてそのにせものを頼った人にとって、救いとはなりません。そして救いでなければ永遠の火の池にあって、神からの分離を意味します。ですから私は生徒に、イエスが救い主であられなかったらどうだろうか、と言います。彼が偽者、ペテン師だとしたら、どうだろうか？そうだとしたら、私たちすべてのクリスチャンはどこに置かれるのだろうか？私は生徒にこう言います。もし私がここに座って、あなたにイエスが救い主であられる事を教え、解放（永遠の火の池から。そして永遠の住まいとしての天に頼る。）の為のすべての希望を、あなたの救い主としてのイエスに置くよう求めるとするなら、私はあなたに、イエスが実際唯一の、正当な、資格ある救い主であられる事を示す義務があります。それ故、私は相当な時間を費やし、神がキリストにあってなされた事柄は、神が人を救われ、グループ１からグループ２に移せる、ただ一人のお方であられる事実を証明するものだ、という点をあなたに示すつもりなのです、と。

Ⅱこの視点においては、あなたの生徒に、証拠はイエスが神の唯一の救い主であられる事を確証している、と話して下さい。

Ａイエスが罪人を救う為になされたみわざは、「福音」と呼ばれています。

１既に示したように、図に「福音」と書いて、生徒にロマ１：１６を開かせなさい。そしてそれも図に加えて下さい。これは重大な章節です。私はそこを引用するか読む時、生徒にそこをめくらせ、目を通させます。

その節から、神が失せた人を救うことがお出来になるのは、「福音」と呼ばれるキリストがなされたみわざの力によるのだ、という点を説明して下さい。その「福音」が、失せた人の救いの為の方法、あるいは「力」なのです。

２次に生徒にコリント前１５：１－４を開かせ、既に示したように図に加えなさい。この章節も極めて重要です。私はそこを読むか引用する時、やはり生徒も自分でそこを見るよう主張します。

まず第一に、１節と２節から、「福音」が私たちの救われる為の方法である事を

説明して下さい。「なんぢら徒らに信ぜずして我が伝へしままを堅く守らば」という聖句で、あなたが混乱したり、生徒を混乱させる事のないように。それについてパウロは単に、もし人々が彼の伝えた福音を信じなかったら（福音を彼は次の二つの節で定義します。）その信仰は無益である、という事を言っているだけです。言い替えれば、「福音」と呼ばれているものを何でも信じれば、それで十分、ではないという事です。救いは、ここで定義する「福音」を信じる事からのみ来ます。

さて３節と４節から、あなたの生徒に「キリストの福音」に関わる聖書の定義を示して下さい。それはキリストが（１）死に（２）葬られ（３）甦えられた、という事実です。あなたは福音のこの三つの部分を指摘しながら、既に例で示したように、図に加えて下さい。キリストの救いの福音とは、聖書全体、又は何かよい、感動的な実例ではなく、キリストが死に、葬られ、甦えられた、という事実である事を、生徒が理解するかどうか確かめなさい。神は全くキリストのみわざの力によってのみ、罪人を救われます（人々を欄１から欄２に移されます）。罪人のおこないは、善くても悪くても、その神との関係については、全然関係ありません。

Ｂさてイエスが本当に神の救い主で、この「福音」を、失せた人の救いの為に効果あるものとしておられるかどうかについては、コリント前１５：３－４が証明の方法を提示します。この章節は、約束されたメシアであるとのイエスの御主張を支持する証拠を、私たちが調べる方法がある、という事を言っています。カギとなる聖句は、イエスのなされた事が「聖書に応じて」であった点です。

１あなたの生徒に、イエスがメシアであられる事を示す別の証拠がある点を説明して下さい。ヨハネ５：３１－３９は五つの特別な証拠を挙げています。それは次の通りです。

（１）約束されたメシアである、とのイエス御自身の御主張。

（２）バプテストのヨハネの証し。

（３）イエスのなされた奇跡のみわざ。

（４）御父の直接の承認。

（５）旧約聖書の証し。パウロがコリント前１５：３－４で触れたのは、このあとのほうの証拠です。

２イエスとパウロが指摘しているのは、旧約聖書が私たちに、メシアあるいは神の救い主である為の一連の資格を与えている、という事実です。イエスが救い主であると言われたから、あるいはパウロがイエスは救い主だと言ったから、という理由だけで、神は私たちに聖書のイエスが救い主であられる事を信じるよう要求しておられるのではありません。イエスを、逐一、メシアはかくあるべきだと預言している旧約聖書箇所全体と比較してみなさい、と言っているのです。もしイエスがすべての項目（ほとんどではなく）で資格を持っておられる事を認めたら、彼がメシアであられること、即ちまことに真正な神の救い主だ、ということがわかります。それはイエスだけがなされたのです。イエスのみ資格をすべて満たしておられるお方です。救い主だと称する人、あるいは救いの方法だと称するものを、旧約聖書の資格条件と比較してみて下さい。そうすれば、他のすべての人が偽者、ペテン師だという事がすぐにわかります。聖書のイエスだけが、旧約聖書の言っているお方でありその通りの事をなされたのです。もし私たちがどこか一ケ所でも足りない点を発見したら、イエスが救い主でない事を知るでしょう。でもイエスは決して欠けた所がありませんでした。

３この視点においては、見本の図で示したように、いくつか線を書き加えていって下さい。各線の消滅する先端は十字架です。

ここで例を示して下さい。

あなたの生徒に、旧約聖書は人には全く知られていない、大きな手袋にいくらか似ている事を告げて下さい。神は救い主と称する者たちが登場したら、彼らの手がこの手袋に合うかどうか見なさい、と言っておられます。もしその手が合わなかったとしたら、救い主と仮定した人は偽者であり、他の誰かは勿論、自分自身でさえ救う事は出来ません。他のすべての人が駄目でしたが、イエスはそうではありませんでした。誰か他の救い主をこの同じテストにかけてごらんなさい。その人（又はその方法）に頼る事がいかにむなしく、ばかげているか、すぐにわかるでしょう。

Ｃこの視点については、こうした一時間の授業で、イエスが正当かつ真正な救い主あるいはキリストであられるという、旧約聖書の多数の証拠に、すべて目を通す事は不可能である、とあなたの生徒に話して下さい。でも少し指摘したい、と話して下さい。

1興味をそそる、考慮すべき分野の一つは、イエスの御降誕の地でした。旧約のミカは、真のメシア又は救い主が、ユダのベツレヘムでお生まれになると言いました。ミカ５：２。救い主と主張しながら、ユダのベツレヘム以外で誕生した者は誰でも本当の救い主ではありません。イエスの場合、お生まれになる少し前、その母マリヤと養父ヨセフは、ガリラヤのナザレに住んでいました。ルカ２：４。母となろうとする人なら誰でも、ロバに乗るか歩いて、起伏の多い山のような地を１００マイルも行ってみようなどとは、決して思わないでしょう。でも実際マリヤはそうしてナザレからベツレヘムまで辿って行ったのです。しかしちょうどその頃、ローマのカイザルは、すべての領民が一定の税金を払うように、との詔令を出しました。ルカ２：１。（※アポグラフォウは登録する、という意味で、欽定訳は課税する、と訳している。）このローマのカイザルは異教徒で、ユダヤ人の神は勿論、唯一の神など信じてもいませんでした。ユダヤ人と彼らの宗教は、彼とローマ帝国にとってトラブルのもとであり、いつもあつれきとなっていました。このカイザルはイスラエルからおよそ１０００マイルも離れた所に住んでいて、古代ユダヤのある預言の正確な成就を保証するような詔令、を出そうとしていたのではなかった事は確かです。しかし彼の詔令により、マリヤとヨセフはこの税金を払う為、ナザレからベツレヘムへの長くてつらい旅を余儀なくされたのです。彼らがその税金を払う為、ベツレヘムへ行かねばならなかった理由は、二人ともダビデ王の子孫だったからなのです。そしてそれもメシアに対して要求されるもう一つの事柄でした。サムエル後７：１６。それで彼らはベツレヘムに行きました。そして実際、全く正しい場所でちょうど予定通りに、イエスはお生まれになりました。ルカ２：６－７。のちにヘロデがイエスの御降誕を聞き、彼を殺そうとした時（マタイ２：１６）御使がヨセフにイエスをエジプトに連れて行くよう告げました。それで彼はそうしました。これでイエスがホセア１１：１を満たす事が可能となりました。それはメシアがエジプトを出られることを預言しました。

2イザヤは真のメシアが処女降誕されねばならないことを、イザヤ７：１４で預言しました。イエスは処女降誕されました。ルカ１：２７，３４－３５。しかし処女降誕の要求は、他のすべての、メシア又は救い主を自認する者を除外します。

教師の皆様への注：ここで動きがとれなくなる、という事のないよう注意して下さい。メシアの最初の御降臨に関する旧訳聖書の預言を、すべて扱おうとしてはいけません。ただ少数のものを選んで、それをよく述べるのです。あなたが自分でよく理解していないものを用いようとしてはいけません。複雑なものをぎこちなく扱うより、単純なものをうまく扱うほうがよいのです。あなたはこの段落を教えながらイエスが来るべきメシアに課せられたすべての必要条件を満たされたけれど、他の誰もその近くに到ることすらなかった点を、強調し続けて下さい。あなたの生徒に証拠はそこにある、ということを教えて下さい。証拠に必要な事は、検査がすべてです。あなたは生徒に、証拠もなしにイエスを救い主として受け入れるよう求めているのではありません。そうです！証拠はそこにあるのです。そしてそれは他のすべての張り合う者を排除しながら、全部イエスを示しているのです。

あなたなら個人的な好みによって扱いたいかもしれない、他の若干の旧訳聖書のメシアたる必要条件としては、ユダの部族の子孫たること（創４９：１０）骨が折られないこと（出１２：４６）手と足が刺し貫かれること（詩２２：１６）十字架でのみことば（詩２２：１）なやみとかなしみの御生涯（イザヤ５３：４）があります。他にも本当にたくさんのことがあります。

３旧訳聖書におけるメシアの必要条件に関する、主要な考え方の一つとしては、メシアが旧訳聖書の「こひつじの行動」の型を満たさなければならない事でした。

聖書のはじめ、即ち創世記３章では、最初の男と女が罪を犯し、神により罪の定めへと落ち込みました。それ以来私たちすべてが同じようになりました。最初の人とその妻（アダムとエバ）がなした事は、まさにそれ以来私たちすべてがなしている事でした。彼らは自分たちで何かをしようとしました。いちじくの葉の衣を作りましたが、神からその裸であることを隠せませんでした。そのいちじくの葉の衣は人間の努力、よきわざ、さらによいおこない、の象徴です。神がその場に来られ、動物（たぶんこひつじ）を殺し、アダムとエバの為に衣を作ってくださいました。アダムとエバに代わるその無垢な動物の死は、来るべきキリストの身代わりのみわざを、前以て示したものです。創世記３：２１に遡り、神はメシアが罪人を救う為罪ある者に代わって、罪なき死を味わわねばならない事を、象徴的に言っておられ

たのです。既に示したように、図に加えなさい。

この視点はまた創２２：１－１４でも、象徴的に立てられています。神はアブラハムに、モリア山でイサクを捧げるよう命じられました。アブラハムがイサクを連れて行く時、少年イサクはいけにえの薪とそれを燃やす火を見ましたが、そのこひつじは見ませんでした。それで彼は７節でこう尋ねました。「燔祭のこひつじはいづくにあるや」アブラハムは答えました。「子よ神自ら燔祭のこひつじを備へたまはん」８節。実際神は、その角がやぶにかかった牡ひつじを備えて下さいました。１３節。アブラハムは罪あるイサクの代わりにその無垢のひつじを献げました。（その象徴的な教えは、またもや罪ある者の為の、罪なき者の身代わりとしての犠牲です。そしてそれは来るべきメシアに関する象徴的な教えです。なぜなら、牡ひつじを献げたのち、アブラハムは１４節でこう言ったからです。「山にエホバそなへたまはん」（※欽定訳は「主の山に見らるべし」新欽定訳は「主の山にそなえあるべし」ヘブル語の読み方による。）未来時制に注意して下さい。ちょうど牡ひつじがイサクの代わりに死んだように、のちにメシア（それは神御自身となります）が罪人に代わり十字架で死なれるのは、実にその場所だったのです。既に示したように図に創２２：１－１４を加えなさい。

このこひつじの行動の型は、さらに出１２章でも立てられています。死の御使は地を過ぎ越そうとしていました。無垢で疵のないこひつじの血を各家のかもいなどに塗った者だけが、難を逃れるのです。全き、疵のないこひつじは、メシアが罪のないお方でなければならない事を意味しました。流された血は、メシアがその血を捧げなければならない、ということでした。かもいなどの血は、キリストの血が失せた者に個人的に供されるべきであることを示しました。それは信仰の時点でおこります。図に出１２を加えなさい。

罪ある礼拝者に代わる何例もの犠牲のひつじを、旧訳聖書から引用する事ができますが、それはレビ人の祭司職を描いています。それぞれが来るべきメシアを前もって示し、その必要条件となっています。たぶんイザヤ５３：７がその事を最もよく言い表しています。「彼はくるしめらるれども、みづからへりくだりて口をひらかず。屠場にひかるるこひつじの如く、毛をきる者のまへにもだす羊の如くして、

その口をひらかざりき」既に示したように、図にイザヤ５３：７を加えなさい。

D今あなたの生徒に、こうした必要条件と、あらかじめ象徴的に示されている事柄は、人々をイエス・キリストに向けさせ、彼のみが失せた人々の救い主であられる事を確信させる為に計画されている、という点を教えて下さい。

１あなたの生徒にヘブル１０：１を開かせ、図に加えなさい。この節から、罪を犯しているユダヤ人の為のレビ人による羊や他の犠牲の捧げ物は、決して一つの罪でさえ、取り除くことがなかった、という点を生徒に示して下さい。この犠牲は罪を除く為のものではありませんでした。罪人を来るべきメシアに向けさせる為でした。ここで例を示して下さい。

生徒に、あなたの仲間や友人の写真を示すか、生徒の家の写真を指して下さい。生徒に、その写真はその人ではなく、本物でもなく、ただ本物に似たものにすぎない事を説明して下さい。誰も写真を抱いたり、手を握ったりしません。

同じように、すべてその犠牲を備えた律法も救いの方法とはなりませんでした。当時のあるいは今のよきわざという方式が、救いの方法とならないように。救いはあるお方のうちに、救い主のうちにあるのです。そしてそのみ名はイエスです。ひつじ、やぎ、牡牛の犠牲はすべて、人を神の本当のこひつじ、即ちイエスに、そしてまた、罪の為の本当の犠牲、即ち十字架でのイエスの死、に向けさせる為の単なる象徴にすぎませんでした。図にヘブル９：１２を加え、それを読むか引用しなさい。

２次にあなたの生徒にガラテヤ３：２４－２６を開かせ、図に加えなさい。聖書のこの箇所で、生徒に律法のすべての面は人をキリストに導く為であった事を示しなさい。

３次はヨハネ１：２９をあなたの図に加え、生徒にバプテストのヨハネがイエスを「これぞ世の罪を除く神のこひつじ」と呼んだ事が、なぜ大きな意味を持ったか説明しなさい。

４次に使徒８：３２－３３を加え、生徒に、エチオピアの人がイザヤ５３：７から読んでいて、ピリポが彼に３５節で、その論及がイエスに対してであると説明した事を示して下さい。

Ⅲ今あなたの生徒に、聖書の神によれば、イエスが十字架でなされたみわざの力により、すべての失せた人が救われ得る、という事を断言して下さい。

Aイエスがその十字架に向かわれたのは、私たち有罪の罪人に代わり、罪のない天の神が死なれる、という事の為でした。

1ペテロ前3：18を加え、それを読むか引用しなさい。

2ペテロ前2：24を加え、それを読むか引用しなさい。

3ロマ5：6，8を加え、それを読むか引用しなさい。

教師の皆様、あなたはこれらの節を詳しく述べる為に、時間を多く費やす必要はありません。あなたが聖書から建て上げた事実のあとですから、これらの章節は自ら語ってくれます。

B今あなたの生徒に、神が既にキリストにあって、失せた人々を救う為に必要なすべてのみわざをなされた事を教えて下さい。それにつけ加える必要ある事は何もありません。

1図にヘブル10：10－14を加え、あなたの生徒にそれを開かせて下さい。この章節から生徒に、旧約の祭司は罪の問題をただすことが決して出来なかったので、坐した事は一度もなかった、という点を示して下さい。けれどもイエスという「一つの犠牲」は罪の問題を一度だけで征服するのに必要なことのすべてであり、永遠のものであったので、イエスは「坐し」たもうたのです。（※永遠または「限りなく」の聖句を欽定訳は上記のように解釈するが、日本の諸訳は神の右に坐すのが限りなく、と読む。）

2それからヨハネ19：30を開き、図に加えなさい。あなたの生徒がこの節を理解するかどうか確かめなさい。生徒に、イエスが「事をはりぬ」と言われた時、敗北を認めておられたのではない、ということを示して下さい。反対にイエスは成功と勝利を表明しておられたのです。イエスがメシアの為のすべての資格、必要を満たしておられた事実、またそのわざをなすのに十全な資格を持った者として、十字架でなされていたみわざの事実のゆえに、「事をはりぬ」と言う事がお出来になれたのです。失せた人々を神に対して救われた関係にもってゆくのに、もうこれ以上のわざは一つとして必要なかったのです。それは、グループ1からグループ2に移る

という話になると、バプテスマ、教会員、よきわざ、忠実さ、その他いかなるおこないも、何の価値もないことを意味します。これ以上のよきわざは誰からも必要ありません。イエスがすべてなして下さいました。

◎あなたが去る時に。

1 これで第三課を終える事を生徒に告げて下さい。次週あなたは「神がなされた事をいかに手に入れるか」という題の授業をする事を説明して下さい。その授業であなたはキリストのみわざを個人のものとする為、神の言っておられる事を正しく説明しますと、生徒に告げて下さい。またその授業であなたは、どの人でも救われている、あるいは欄2にいる、という事をどうしたら確実に知る事が出来るかも示します、と説明して下さい。

2 あなたの生徒を励まし、次の週までの間に図のおさらいをさせて下さい。

3 いつも生徒を教会に招きなさい。

4 立って玄関まで進み、心からさようならと言って下さい。そしてあなたが次週、いつもの時間にやってくる事を保証して下さい。

ロマ１４：１１－１２

ロマ２：２

ヨハネ１７：１７

神

サムエル前１６：７

１構成

２預言

３聖書の主張
ペテロ後１：２１
テモテ後３：１６
コリント前２：９～１０

福　音
ロマ１：１６
コリント前１５：１～４
１死
２埋葬
３甦り

無　関　係

１失せた者
ルカ１９：１０
２罪に定められる
ヨハネ３：１８
３罪の赦されていない
使徒１３：３８－３９
４不義
ロマ１：１８
５咎と罪とにて死にたる者
エペソ２：１
６永遠の火の池
黙示録２０：１４－１５

創3:21
創22:1-14
出12
イザヤ53:7
ヘブル9:12
ヘブル10:1
ガ3:24-26
ヨハネ1:29
使徒8:32-35
ペ前3:18
ペ前2:24
ロマ5:6-8
ヘ10:10-14
ヨハネ19:30

関　係

１救われた者
エペソ２：８－９
２義とされる
ロマ５：１
３罪の赦された
エペソ１：７
４義
ロマ３：２２
５永遠の生命
ヨハネ５：２４
６天国
ヨハネ１４：１－３

１００パーセントよいおこない

愛　バプテスマ　教会　礼拝　奉仕

１祈り
２賛美
３施し
４宣教
５主の晩餐

エペソ２：８－９
テトス３：５
イザヤ６４：６
ロマ４：５

第三課の為の学習紙と授業計画

主題
失せた世の為に神がなして下さった事

意図

イエス・キリストはその福音を通し、失せた人を御自身との正しい関係にもってゆくのに必要な、すべての事をして下さいました。

適用

生徒に自分が自分を救う事は出来ないけれども、救い主によって救われ得る事を理解させることです。永遠の罪の定めから人を救う為に、救い主は多くの人念にして特別な要求を満たさなければなりません。イエス・キリスト、ただイエス・キリストだけが各要求そしてすべての要求を、実際に満たし（満たす事が出来）、どの失せた人であっても、その人からいかなるたぐいの助けもなしに、救う事がお出来になるのです。

暗記すべき聖書の諸節

ロマ１：１６「そは我はキリストの福音を恥とせざればなり。そはユダヤ人を初とし、ギリシャ人、すべて信ずる者に対する救のために神の力なればなり。」（永井訳）

コリント前１５：３－４「わが第一に汝らに伝へしは、我が受けし所にして、キリスト聖書に応じて我らの罪のために死に、また葬られ、聖書に応じて三日めに甦へり」

イザヤ５３：７「彼はくるしめらるれどもみづからへりくだりて口をひらかず。ほふりばにひかるるこひつじの如く、毛をきる者のまへにもだす羊の如くして、その口をひらかざりき。」

ヨハネ１：２９「明くる日ヨハネ、イエスの己が許にきたり給ふを見ていふ『視よ、これぞ世の罪を除く神のこひつじ。」

ヘブル１０：１２「然れどキリストは罪のために一つの犠牲を献げて、限りなく神の右に坐し」

ヨハネ１９：３０「是の故にイエス酢を受け給ひしとき、のたまへり、完うせられたり。かくて頭を垂れ霊を渡し給ひき。」（氷井訳）

概略

Ⅰ　人は自分自身を救う事は出来ませんが、救われ得ます。

A「救われた」を説明して下さい。

1「救う」とは危険から救助する、または解放する事です。

例：おぼれている子が救助員によって救われる。

2「救われた」の聖書的な意味。

B言葉の聖書的な意味においては、人は自分自身を「救う」事が出来ません。

例：大西洋のど真中で沈む船。

C神は聖書のイエスが失せた人々を救う事がお出来になる、と言われます。

過渡的な考え：時間をかけて生徒に、キリストにあって神がなされた事は、人々をグループ1からグループ2に変える、という点を示すこと。

Ⅱ　証拠はイエスが神の唯一の救い主であられる事を確証しています。

A「福音」

1神は「福音」の力によって罪人を救われます。ロマ1：16。

2福音はキリストのa死、b埋葬、c甦りです。コリント前15：1－4。

B「聖書に応じて」が証明の一方法。コリント前15：3－4。

1五つの特別な証拠の一つ。ヨハネ5：31－39。

2メシアはすべての点で資格を備えていなければなりません。

3消滅する先端のある線をいくつか加えなさい。

例：手袋に合う手。

Cメシアが満たさなければならない必要条件を少しだけ一瞥する。

1そのご降誕の場。ミカ5：2；ルカ2：1，4，6－7；サムエル後7：16；マタイ2：16；ホセア11：1。

2処女降誕。イザヤ7：14；ルカ1：27，34－35。

3こひつじの行動の型。創3：21；22：1－14；出12；イザヤ53：7。

Dすべての必要条件とあらかじめ象徴的に示されている事柄は、人々をイエスに向けさせ、彼のみが救い主であられる事を確信させる為に、計画されています。ヘブル9：12。

1本物をあらかじめ示す。ヘブル１０：１。

例：誰かの写真はその本人ではないこと。

2人々をキリストに導く為に計画された律法。ガラテヤ３：２４－２６。

3ヨハネ１：２９におけるバプテストのヨハネの言明の意義。

4使徒８：３２－３５におけるピリポのイザヤ５３：７の説明。

過渡的な考え：エチオピアの人へのピリポの説明。

Ⅲ 神は、イエスが十字架でなされたみわざの力により、人を救い得る事を言われます。

A罪のないキリストが罪ある人の身代わりとなられました。ペテロ前３：１８；２：２４；ロマ５：６－８。

Bキリストは全てのわざをなされました。何もそれに付け加える必要はありません。

1キリストは「一つの犠牲」により、「永遠に」そのみわざを終えられました。ヘブル１０：１０－１４。

2「事をはりぬ」ヨハネ１９：３０。

結論的な考え：次週の授業の題は「神がなされた事をいかに手に入れるか」で、イエス・キリストの偉大なみわざをどのようにして個人のものとするか、を示すことになります。